

「超高齢社会におけるデンタルインプラント治療の光と陰」

村上 弘

【講演内容概略】

超高齢社会を迎え、多くの人々が長寿になった。

しかし、要介護者や寝たきり老人、重度の全身疾患を有する患者が増加し、歯科医療を求める患者層や疾病構造が大きく変化しつつある。

その中で、顎骨吸収が著しく義歯が不安定になり、摂食できない人々にとって、デンタルインプラントによる義歯の維持はきわめて朗報である。

しかしながら、インプラント周囲炎や咬合不全の原因となっていることも事実である。

また、往診歯科医師やそのスタッフ、介護士などはインプラントに対する知識不足などで、そのメンテナンスに困惑することも多いと言われ、今後の課題となる事が予想される。

そこで、患者が何らかの理由で来院できなくなることを予想し、上部構造をヒーリングアバットメント、あるいは根面アタッチメントに交換し、可撤性義歯に設計変更できるような方法を推奨している。

すなわち、上部構造の維持はセメント固定よりスクリュー固定が望ましいと考えている。